

2018年度

徳島大学全学FD推進プログラムの実施報告書

徳島大学総合教育センター
教育改革推進部門

報告

2018 年度徳島大学全学 FD 推進プログラムの実施報告

川野卓二 吉田 博 上田勇仁
徳島大学総合教育センター

要約：全学 FD 推進プログラムは 2002 年度から開始され、FD の体系化、組織化、日常化等を推進してきた。2018 年度は、例年開催している、「授業設計ワークショップ」、「授業参観・授業研究会」、「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」、「大学教育カンファレンス in 徳島」の他に、大学教育再生加速プログラムに関連する「SIH 道場担当者 FD」や学内でのアクティブ・ラーニング推進を目的とした、「スマートフォンを活用した授業改善ワークショップ」を実施した。また、新しく策定された「教育の内部質保証方針」の周知とそれに則ったシラバスの書き方に関する FD を実施した。各プログラムについて概要を記載し、アンケート結果等から成果と今後の課題について考察する。

(キーワード：大学教育再生加速プログラム、教育の内部質保証方針、教育力開発コース)

2018 Annual Report on Faculty Development Programs at Tokushima University

Takuji KAWANO Hiroshi YOSHIDA Hayato UEDA
Center of University Education, Tokushima University

Abstract: Tokushima University's Faculty Development (FD) promotion programs started in 2002. They promote the systematization, organization and routinization of FD activities. In 2018, in addition to the regular FD programs, which included the Course Design Workshop, Classroom Observation and Discussion Meeting, the Teaching Portfolio Workshop and the University Education Conference, we conducted an FD seminar relating to the Ministry of Education's Acceleration Program for University Education Rebuilding (AP) for the teachers who teach in SIH Dojo classes, known as Introduction to Active Learning for First Year Students. To promote active learning on our campus, we also conducted another seminar called Teaching Improvement Workshop using Smartphones in the class. Moreover, we implemented FD for the newly established 'Internal Quality Assurance Policy of Education' and for the revised syllabus writing guidelines. We provide outlines of the respective programs and discuss the issues raised in the responses to the questionnaires.

(Key words: Acceleration Program for University Education, Internal Quality Assurance Policy of Education, Course Design Workshop)

1. はじめに

近年、大学教育の質的転換が求められているなか、教育の内部質保証を実現するために、大学には自己点検評価の機能の実質化が強く求められており、本学では、教育の質保証を実現するために、全学 FD 推進プログラムを通じて個々の教員から教育プログラムならびに大学組織全体に至るすべてのレベルにおいて、教育改善の取組につながる活動を行っている。そのための実施計画を毎年策定し、普段からその教育活動の見える化を図り、エビデンスの蓄積に努め、説明責任を果たすための日常的な評価の文化を醸成することを目指している。

2018 年度は、昨年に引き続き全学 FD 推進プログラムにおいて、専門分野・カリキュラム体系の観点から教育改革の推進とその効果検証を進め、

教員の職能開発の観点から大学教育再生加速プログラム事業と連携してアクティブ・ラーニングを推進することを基本方針とした。具体的には、大学における組織改革・改善を視野に置いて教育改革に関する提案や情報提供を行ったり、マクロレベルの FD として大学執行部や学部等への提案や連携を行ったりしながら教育改革を進めるために、1) 教育改革 FD, 2) 教育の質保証 FD, 3) 教育力開発 FD, 4) 総括的な FD の 4 つの観点から全学 FD を実施した。

これらによって、学内における SoTL 実践活動の文化を形成し、教員相互の学び合いの場(機会)を提供し、各学部教員と総合教育センター教員が連携していくことを目指した。

以下、今年度の各 FD の具体的内容とその成果・課題を述べる。(川野卓二)

2. 教育改革に関する勉強会

教育改革推進部門では、マクロレベルの FD として教育改革に関する議論、勉強会、具体的な提案の作成を行っている。近年は、エビデンスに基づく教育改革の重要性が増してきており、2017 年度より教育担当副学長と共に、徳島大学における教学 IR を担う組織の設置に向けた勉強会を実施してきた。

2018 年度も引き続き、本学における教学 IR の組織に関する勉強会を実施してきた。実際には、4 月 18 日 (水)、5 月 18 日 (金)、7 月 20 日 (金)、9 月 25 日 (火) に 4 回の勉強会 (教学 IR 室 (仮) 設置準備会議) を実施し、議論してきたことで、2018 年 10 月に「教育の質保証支援室」を設置した。教育改革推進部門は、引き続き全学 FD 推進プログラム等の活動を通じて本学の教育改革、教育の内部質保証に関わる取り組みを「教育の質保証支援室」等との連携を通じて貢献することが期待されている。(川野卓二)

3. 教育改革に関する提案・意見交換

2017 年度に学位評価授与機構より、第 3 サイクルの認証評価についての方針が発表され、特に教育の内部質保証の仕組みが整備されているか否かが、重要な確認ポイントであることが示された。

本学では、内部質保証に関する全学的な方針を定めたものはこれまでに存在しておらず、まずは全学的な方針の作成に着手した。

2018 年度は、教育改革推進部門の勉強会として、4 月～11 月にかけて 20 回の勉強会を実施し (毎月 4 回程度)、他大学の事例調査、大学教育委員会、教育の質に関する専門委員会の委員との議論を行い、「教育の内部質保証方針」の原案を作成した。

2018 年 11 月 21 日 (水) の大学教育委員会において、これまで協議してきた「教育の内部質保証方針」および「成績評価基準」、「シラバス作成ガイドライン (改訂)」が承認された。今回承認された「教育の内部質保証方針」は、教育改革推進部門において以前から提案していたアセスメント・ポリシーの内容が大幅に組み入れられており、学内で行われるすべての教育活動の評価に関してそ

の透明性を確保することが主な狙いとなっており、ステークホルダーへの説明責任をより明確にすることが可能となった。

「教育の内部質保証方針」および「シラバス作成ガイドライン (改訂)」に則った内容の FD を、次節以降 (4 節, 9 節, 11 節) で紹介する。これらは、学内で日常的な評価の文化が成熟するための重要な起点になるだろうと考えている。

2019 年度に受審する大学機関別認証評価に対応するためにも今回の方針等の策定は重要な前進である。新しく策定された方針が具体的にその機能を果たしているかどうかを確認できるように、質保証方針でその存在について言及した各部局の教育プログラム評価委員会を 2018 年度中に設置することとなり、現在各部局で委員会規則等の整備が進められている。今後の課題として、今年度策定され承認を受けた方針やガイドライン等の実質化を図るとともに、将来行われるそれらの見直し作業に関連する手順や様式類の準備を含んだ教育改革 FD を進めていくことが挙げられる。

(川野卓二)

4. 質保証のためのワークショップ

a. ねらい・背景

2016 年度に実施した「質保証のための分野別ワークショップ」で抽出した、各学部等 FD の課題やニーズ把握、及び各学部等 FD 委員会を対象としたミドルレベル FD の要望調査において、「教育プログラム・カリキュラムの評価・改善」に対するニーズが存在していることが明らかになった。また、2018 年度は大学教育委員会において「教育の内部質保証方針」の検討が行われ、11 月に承認された。教育の内部質保証方針では、教育プログラムの評価についても明記されており、今後は各学部・学科においてカリキュラムの評価、改善に関する議論がさらに活発になることが想定される。

2017 年度に実施した「質保証のためのワークショップ」では、すべてのカリキュラムマップ単位から 2 名以上の担当者を選出し、カリキュラムの評価、改善に繋げるための「カリキュラムアセスメントチェックリスト」の解説や、実際にチェックリストを作成するワークショップを実施した。こ

のうち、医学部医学科、薬学部の2学部等から、継続してカリキュラム評価に関する検討を行いたいとの希望があった。

そこで、2018年度の質保証のためのワークショップは、全学的にカリキュラムの評価、改善の取り組みを実施していくために、この2学部等の取り組みを継続的に支援し、全学的に実施するためのモデルケースとして参考にすることとした。

b. 概要

●2018年4月27日(金)

場所：薬学部実験研究棟2階セミナー室
参加者：柏田良樹・難波康祐・藤野裕道・佐藤陽一(薬学部)

●2018年12月6日(木)

場所：日亜会館2階講義室2
参加者：赤池雅史(医学部医学科)

●2018年12月17日(月)

場所：薬学部実験研究棟2階多目的室
参加者：柏田良樹・山崎哲夫(薬学部)

c. 成果と課題

薬学部では、カリキュラムチェックリストを完成させ、そこに挙げられた評価の根拠となる資料を、薬学部の教員と教育改革推進部門の教員が確認しながら「自己点検シート」を作成した。これらのやり取りにおいて、薬学部で共通して活用しているルーブリックの改善点が明らかになり、態度領域に関する成果の測定について、具体的な意見交換が行われた。また、2018年度に改組したことから、改組前後の学生の特徴を比較するために、SIH道場の学生アンケートの分析を教育改革推進部門が支援するなど、学部と教育改革推進部門との協働の在り方も一つの参考事例となった。医学科においては、カリキュラムチェックリストの作成状況を確認し、今後はコンピテンシーを基にしたカリキュラムチェックリストを作成する予定であり、完成後に教育改革推進部門教員も確認することなどが共有された。

継続して実施した2学部等の取り組みは、今後すべての学部・学科でカリキュラム評価を実施していく際に、評価のプロセス、評価のためのツール(カリキュラムアセスメントチェックリスト、自己点検シートなど)、教育改革推進部門の支援や

協働の在り方など、参考になる実践となった。2018年度に「教育の内部質保証方針」が策定されたことから、早急にすべての学部・学科においてカリキュラム評価について何らかの取り組みを進めていくことが求められる。2019年度には、すべての学部・学科を対象としたワークショップを実施する必要があると考える。(吉田 博)

5. 授業設計ワークショップ

新任教員の授業設計・教授法を推進するための授業設計ワークショップを開催している。本ワークショップは、授業参観・授業研究会、ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップと共に「教育力開発コース」の1つとして提供している。これら3つのプログラムを連続的に提供し、授業設計、授業の実施・改善、教育活動を振り返り、自身の目標を明確にして授業改善に繋げるといった一連のプロセスを支援するためのものである。本節では、今年度の授業設計ワークショップの内容、成果と課題について報告する。

a. ねらい

本ワークショップは、授業設計とアクティブ・ラーニングの手法について学ぶものである。本ワークショップの目標は次の4つである。

- ① FD活動の理念、活動計画を理解することができる。
- ② 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得することができる。
- ③ 授業研究の仕方を理解し、実践することができる。
- ④ FD参加者同士の仲間づくりができる。

また、2017年度から参加者がワークショップの講義部分を、ビデオ教材で事前に学習してからワークショップに参加する反転授業形式を導入している。

b. 概要

■開催期日

2018年6月16日(土)～6月17日(日)

■会場

地域創生・国際交流会館5階フューチャーセンター 他

■対象者

本ワークショップは学外 (SPOD) へ開放しているため、学内のみならず、学外の教員も対象としている。

学内の対象者は、学外より講師または准教授採用後 1 年以内の教員、及び、学内で助教から講師または准教授昇任後 1 年以内の教員を中心とし、2017 年度に実施した「授業設計ワークショップ」の欠席者、推薦を受けた者 (助教及び、教授等) も対象としている。ただし、所属が教育系以外のセンター等、病院及び、プロジェクト採用等の場合は除いた。また、①学外で同様の研修を受けた場合、②担当する授業がない場合、③診療業務を主に担当している場合、についても参加を免除した。また、学外の対象者については、徳島県内の大学・短大・高専 (T-SPOD) 及び、その他 SPOD 加盟校の教員とした。

■参加者

今年度の参加者は、教員 16 名 (徳島大学 14 名、学外教員名 2 名) であり、詳細は次の通りである。

【学内教員】

氏名	所属	職名
兼松 康久	医学部	准教授
平山 晃斉	医学部	准教授
桑野 由紀	医学部	講師
石澤 有紀	医学部	講師
河野 理	医学部	准教授
富永 辰也	医学部	准教授
村上 圭史	歯学部	准教授
寺町 順平	歯学部	講師
川合 暢彦	歯学部	講師
中田 成智	理工学部	准教授
白根 竹人	理工学部	講師
押村 美幸	理工学部	講師
白井 昭博	生物資源産業学部	講師
大村 和人	教養教育院	准教授

【学外教員 (SPOD)】

氏名	所属	職名
瀧川 稲子	徳島文理大学	講師
中妻 彩	徳島文理大学	講師

■運営メンバー

運営メンバーは、副学長 (教育担当)、総合教育

センター教育改革推進部門長 (FD 委員会委員長)、FD 委員会委員を含め、教員 12 名、教育支援課職員 2 名の計 14 名であり、詳細は次の通りである。

氏名	所属	職名
高石 喜久		副学長
赤池 雅史	総合教育センター	副センター長
川野 卓二	教育改革推進部門	教授
山口 鉄生	総合科学部	教授
河合 慶親	医学部	教授
友竹 正人	医学部	教授
山崎 哲男	薬学部	教授
上田 哲史	情報センター	センター長
吉田 博	教育改革推進部門	講師
上田 勇仁	教育改革推進部門	助教
塩川 奈々美	教育改革推進部門	特任助教
上岡 麻衣子	教育改革推進部門	特任研究員
福川 利夫	教育支援課	課長
白田 智子	教育支援課	専門職員

■内容

2 日間にわたり、表 1 のプログラムを実施した。

■全体の流れ

[1 日目]

「(1) オリエンテーション」では、大学教育改革の流れや、本学の教育改革について説明を行った。続いて、授業設計ワークショップ全体の流れや教育力開発コースの意図や内容を説明し、昨年度の参加者の声を紹介して、参加者の動機づけを行った。

「(2) アイスブレイク」では、参加者や運営スタッフが交流を行いながら、お互いについて知ることができるようにワークショップを実施した。

「(3) ワーク 授業設計の基本」では、事前にビデオ教材による講義「アクティブ・ラーニング」と「成績評価の仕方」を視聴した上で参加する、反転授業形式で実施した。はじめに、事前学習に関する確認として、スマートフォンを活用して簡単なクイズを実施した。同時に、反転授業を実施する際の注意点や、スマートフォンを活用したクイズの作り方などの説明を行った。続いて、「学生の学習を促進する事例カード」を紹介し、授業設計を行う際に検討すべき点を説明し、参加者の授

業に取り入れることができそうな事例を確認した。

「(4) ワーク 自身の教育理念」では、教育活動を行う上で、それぞれの教員が大切にしていることを整理しながら、教育理念を意識することの大切さを説明し、教育理念を整理するためのミニワークと「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」の説明を行った。

「(5) 講義・ワーク 授業計画」では、シラバスや授業計画書の書き方について説明があり、徳島大学が定める「シラバス作成ガイドライン」が紹介され、目標設定の仕方や、その記述方法が解説された。続いて、これまでの講義やワークを踏まえて、参加者があらかじめ作成したシラバス、授業計画書の検討・修正を行った。その後、参加者間でシラバスを交換して相互チェックを行った。
[2 日目]

「(6) 模擬授業実施 (グループで実施)」では、参加者や運営メンバーがグループごとに各教室に分かれて、参加者全員が模擬授業を実施した。各グループには FD 委員会の教員、総合教育センター教育改革推進部門の教員がコンサルタントや司会者として入り、支援を行った。模擬授業の手順は、はじめに参加者が模擬授業を実施する授業のシラバスと授業計画書を説明し、その中からある一部分の 15 分間を切り取り、その授業を実施した。

模擬授業の様子は撮影され、その後の授業検討会で視聴しながらフィードバックを行った。グループの参加者は学生の立場から模擬授業に参加した後、チェックリストに基づき授業の検討を行った。この他にも良かった点、より良くするための提案について自由記述形式で用紙に記入し、模擬授業実施者へのフィードバックを行った。

授業検討会は、参加者がお互いに良い点、改善点について話し合いながら検討を行う取り組みとして行われた。

「(7) 模擬授業の振り返り」では、模擬授業に対する全体的なコメントがあり、その後参加者がワークシートをもとに自身の模擬授業を省察し、グループのメンバーからももらった意見をまとめ、今後のアクションプランを作成した。最後に、各グループから代表 1 名が、研修で学んだことやアクションプランを紹介し、全体での共有を行った。

「(8) 教育力開発コース概要」では、《授業設計ワークショップ》⇒《授業参観・授業研究会》⇒《ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ》と続く「教育力開発コース」の概要や意義が説明された。

「(9) プログラムのまとめ」では、ワークショップ全体に対する講評があり、その後参加者に修了証書が授与され、終わりの言葉によって締めくくられた。

c. アンケート結果

研修終了後に実施したアンケート結果を図 1 に記す。

d. アンケートの自由記述

最後に、ワークショップ終了直後に実施したアンケートの自由記述の代表的な回答を示す。

(1) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。

- ◆「学生へ伝える力」
- ◆「アクティブ・ラーニングの導入、実習の内容」
- ◆「プレゼンテーションスキル、Web ツールの利用スキル」
- ◆「他の教員と足なみをそろえる」
- ◆「学生を更に授業に参加させ、学習内容をアウトプットさせる工夫」
- ◆「やる気のない学生を講義に引き込むスキル」

(2) 参加して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

- ◆「他の先生方に私の講義の評価をしていただいたこと。」
- ◆「反転授業や、プレゼンテーションの準備等、学生の負担や緊張感を知ることができた。他の人の授業のやり方が参考になった。」
- ◆「徳大の教育に対する考えがわかった。」
- ◆「アクティブ・ラーニングのイメージがかなり変わった。少しずつ改善していこうと思った。」
- ◆「他の先生の授業を聞くことで、学生の視点にたつことができた」
- ◆「自分の授業の要改善点を専門分野の異なる教員から指摘いただけた。」
- ◆「他分野の先生・多くの先生の授業を聞く事ができた事」

(3) 研修をよりよいものにするために改善すべき

点があれば、具体的にお書き下さい。

- ◆「学生に人気のある先生の講義をビデオで見たい。」
 - ◆「教員側に求めるだけでなく学生側にもアクティブ・ラーニングを行う上で重要な点を示した方が良くと思う。」
 - ◆「1 日目の最後に、シラバスや授業計画書を直す時間をもう少しほしかった。改善点をもう少し詳しくうかがいたかった。」
 - ◆「立場（教授等）に関わらず、必要な人は受けるべきだと思う。」
 - ◆「はじめに参考となる良い授業の例を見せてもらいたい。」
- (4)その他、お気づきの点があればご記入下さい。
- ◆「模擬授業のディスカッションがもう少し長くてもよいかもしいと思います。」
 - ◆「分野別にもう少し具体例に突っ込んだ内容があればいいかもしれない。」

e. 成果と課題

アンケート結果から「授業設計ワークショップは自分の業務に生かせる内容だった」の項目についてすべての受講者が肯定的に捉えていることから受講者にとって授業設計ワークショップが有意義な内容であったことが推測される。また、自由記述においても「他の先生方に私の講義の評価をしていただいたこと。」といった記述があり、模擬授業を通じて自分自身の授業を第三者に評価されることが、参加者にとってワークショップに参加したことの意義を感じることに繋がっていると推測される。また、「反転授業や、プレゼンテーションの準備等、学生の負担や緊張感を知ることができた。他の人の授業のやり方が参考になった。」と言った記述があり、実際に反転授業を体験することで、自分自身の授業に応用するかどうか判断する機会になったと考えられる。アンケート結果からも「反転授業形式を体験することで、反転授業を実施する際の留意点に気付くことができた」の項目について9割以上の参加者が肯定的に捉えていることから反転授業を体験することで、自身の授業を導入する際の留意点の把握に繋がっていると推測される。

一方で、「授業設計ワークショップの実施時期は

表 1 2018 年度授業設計ワークショップ日程

授業設計ワークショップ日程（第 1 日目）

日時：平成 30 年 6 月 16 日（土）
場所：常三島キャンパス 地域創生・国際交流会館 5 階 フューチャーセンター

時刻	内容	講師・担当者	備考
12:30-12:50	・受付（フューチャーセンター） ※12:45 までにお集りください		11:00 前徳島市に「大商 警察 警備 警備 警備」または「本水 警察 警備 警備」が出ている止し
12:50-13:30	(1) オリエンテーション ・はじめに （総合教育センター副センター長より挨拶） ・大学教育改革の流れ ・研修のねらいと意義	上田 勇仁（進行） 副センター長 赤池 雅史 FD 委員会委員長 川野 卓二	フューチャーセンター
13:30-14:00	(2) アイスブレイク「課題・目標設定」 ・参加者自己紹介・交流	上岡 麻衣子	フューチャーセンター
14:00-15:00	(3) ワーク「授業設計の基本」 ・アクティブ・ラーニングの理論と効果 ・成績評価の意義・方法 ・学生の学習を促す授業方法	上田 勇仁	フューチャーセンター
15:00-15:10	休憩		
15:10-16:10	(4) ワーク「自身の教育理念」 ・授業で大切にしていること	上田 勇仁	フューチャーセンター
16:10-16:20	休憩		
16:20-17:45	(5) 講師・ワーク「授業計画」 ・シラバス・授業計画書の書き方 ・シラバス・授業計画書の修正 ・2 日目の模擬授業の進め方について	上田 勇仁	フューチャーセンター
18:00-20:00	交流会（任意参加）	上田 勇仁	

※事前に「授業設計ワークショップ」の講師ビデオのうち、指定された講師を必ず視聴して下さい。当日はビデオによる学習を行っていることを前提に、参加者間でのグループワーク等を行います。

授業設計ワークショップ日程（第 2 日目）

日時：平成 30 年 6 月 17 日（日）
場所：常三島キャンパス 教養教育 4 号館 202 講義室 他
（集合後、模擬授業を実施する教室へ移動します。）

時刻	内容	講師・担当者	備考
9:00-9:30	・集合、模擬授業準備 （教材印刷が必要な場合は 9:00 集合）	スタッフ	集合：教養教育 4 号館 202 講義室
9:30-12:10	(6) 模擬授業実施（グループで実施） ・FD 委員紹介、流れの確認 【模擬授業の流れ】（1 人 25 分×4 人（休憩適宜）） ・シラバス・授業計画書の紹介（5 分） ・模擬授業の実施（15 分） ・授業検討会（10 分） →チェックリストをもとによかった点、改善点等を検討する。	各室司会：FD 委員 ワーク支援： スタッフ全員	（模擬授業実施手順） 教養・各室グループ副 長へ移動
12:10-13:10	休憩 各自で昼食		* 生協休業
13:10-13:40	(7) 模擬授業の振り返り ・模擬授業検討会を受けて授業の改善点 ・今後のアクションプラン	川野 卓二	教養教育 4 号館 202 講義室
13:40-14:00	(8) 教育力開発コース概要 ・教育力開発コースの意義・内容	上田 勇仁	教養教育 4 号館 202 講義室
14:00-14:40	(9) プログラムのまとめ ・講評 ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	上田 勇仁（進行） 副学長（教養担当） 高石 喜久 FD 委員会委員長 川野 卓二	教養教育 4 号館 202 講義室

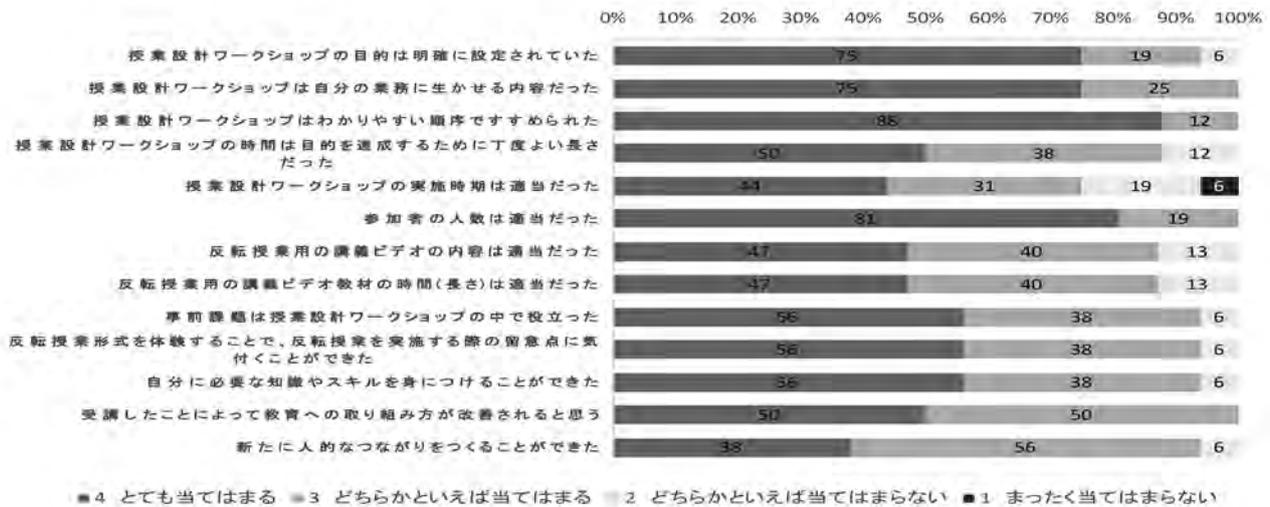


図 1 2018 年度授業設計ワークショップアンケート結果 (N=15~16) (一部)

「適当だった」の設問項目については、2 割を超える受講者が否定的に捉えていることが分かった。

各学部の予定を鑑みても、ワークショップをどのような時期に実施しても、一定数の受講者が否定的に捉える可能性があるが、次年度以降別の時期に実施した場合、否定的に捉える受講者がどの程度存在するのか継続的に検討していく必要がある。(上田勇仁)

6. 授業参観・授業研究会

a. 授業参観・授業研究会の目的

授業参観・授業研究会は、徳島大学に講師または准教授として新規採用された教員、及び助教などから昇任した教員を対象に実施している「教育力開発コース」のプログラムの 1 つである。個々の教員の実情に沿った具体的で日常的な FD を目指しており、授業の把握、授業の改善、参加者間での授業技術の共有を目的としている。

b. 授業参観・授業研究会の流れ

授業参観・授業研究会は、はじめに対象となる教員の授業を参観し、授業映像の撮影、学生アンケートを実施する。続いて授業研究会（発表・映像視聴・議論）を実施する。

授業参観では、総合教育センター教員及び参加者が、各教員の授業を参観し、簡単なメモ（授業内容のまとめ、時間経過、特筆すべき発言や出来事）をとりつつ、授業をビデオカメラで撮影

する。授業終了時には、学生へのアンケート（授業で良かった点、改善して欲しい点、授業に関する先生へのメッセージについて）を実施する。続いて実施する授業研究会では、総合教育センター教員及び参加者と授業実施教員が授業内容について議論を行う。撮影した映像を確認したり、学生アンケートの結果を確認しながら、うまくいっている点や工夫されている点を共有したり、困っている点を解決するためのアイデアを共有する。

c. 授業参観・授業研究会の報告

● 第 1 回 2018 年 6 月 12 日 (火) 15:40~16:40

- ・開催場所：脳神経外科医局
- ・授業担当者：多田恵曜 講師
(大学院医歯薬学研究部)
- ・授業題目：『てんかんの外科』
- ・共催：医学部 FD 委員会
- ・内容：授業の最初に、今日の内容のポイントをまとめた 2 枚のスライド、最後には 1 枚のまとめスライドが配置されていた。また、てんかんやてんかん発作について理解を深めることができる動画も多く、それぞれに丁寧な説明を加えながら進められていて、学生から分かりやすい授業であったとのコメントが多く寄せられた。講義で取り上げた内容と国家試験との関わりに関する情報もあった。授業改善の一方向として、講義中に双方向的な部分を意識して挿入し、形成的な学生の理解度確認をどのように行うこと

ができるか話し合った。

●第 2 回 2018 年 7 月 11 日 (水) 13:00~14:00

・開催場所: 教養教育 6 号館 3 階 授業研究インテリジェントラボ

・授業担当者: 刑部祐里子 准教授

(大学院社会産業理工学研究部)

・授業題目: 『植物生理学』

・共催: 生物資源産業学部 FD 委員会

・内容: 授業では、ダーウィンの論文など過去の研究から、現在に至る先端的な研究を解説しながら植物の仕組みについて解説されていた。これから専門的に学ぶための基礎になる内容について研究結果を踏まえて、分かりやすく講義されていた。授業研究会では、撮影したビデオや学生のアンケート結果をもとに、意見交換を行い、学生の様子などについても議論を行った。

●第 3 回 2018 年 6 月 27 日 (水) 10:50~11:50

・開催場所: 歯学部第 1 会議室

・授業担当者: 細木真紀 講師

(大学院医歯薬学研究部)

・授業題目: 『歯科補綴学 2』

・共催: 歯学部 FD 委員会

・内容: 授業は顎口腔機能について理解し、障害がある場合に補綴物による回復を行うための検査、診断、治療法を理解することを目的としている。授業で学習した内容が、臨床実習や国家試験と関連していることを、学生が理解できるように工夫しながら解説を行っていた。また、授業の一部に TBL (Team Based Learning) を導入し、学生が協働して課題に取り組む中で理解が深められるように授業を設計している。実際に参観した授業においても、学生による活発な議論が行われており、先生の解説の後に数名の学生から質問が出され、双方向の授業が展開されていた。授業研究会では、学生アンケートに挙げられていた、「説明の速さ」や「授業で取り扱う内容量」について議論した。配付資料を活かして解説する内容を絞ることや、重要度に応じて強弱をつけて話すなどの工夫が共有された。また、事前学習を行わない学生をより少なくする方法についても意見交換を行った。

●第 4 回 2018 年 6 月 29 日 (金) 14:20~15:20

・開催場所: 機械棟 310 会議室 (M310)

・授業担当者: 南川丈夫 准教授

(大学院社会産業理工学研究部)

・授業題目: 『機械科学実験 1』

・共催: 理工学部 FD 委員会

・内容: 授業参観・授業研究会とともに、多くの同僚教員の参加があった。授業は、丁寧な板書があり分かりやすく、説明のスピードも学生はちょうどよいと感じた。高校で学んだ内容の復習から入り、今日の実験の目的である、電気抵抗の変化を利用してひずみを測定する基本的な考え方が紹介された。それぞれの段階で実際に計算する時間を十分にとり、学生にとって理解を深めることができる時間配分になっており、学生の理解度の平均は 7.75 と高い値を示した。授業研究会に参加されていた別の教員から、実験授業の説明の部分を対象とした授業参観・授業研究会ではなく、実際の実験をどのように進めることがよいのかに焦点をあてた研究会も必要ではないかとのコメントが出された。

●第 5 回 2018 年 10 月 12 日 (金) 15:20~16:20

・開催場所: 歯学部 4 階第 3 実習室

・授業担当者: 寺町順平 講師

(大学院医歯薬学研究部)

・授業題目: 『解剖学 (2) A・B 講義の一般組織学総論』

・共催: 歯学部 FD 委員会

・内容: 授業は人体の構造について、特に細胞や組織及び器官の形状と機能を理解することを目的としている。先生の授業では、板書とスライドを効果的に使い分けながら解説を行い、最先端の情報や、薬などが開発されるまでの話なども織り交ぜながら、学生の学習への動機づけを行っていた。また、解説の後には、授業内容に関連する過去の国家試験に出題された問題を確認テストとして実施し、学生の理解を確認したり、重要な点の再確認を行っていた。学生アンケートにおいても確認テストがあるのでありがたいという意見がいくつか挙げられていた。授業研究会では、授業の中で取り扱う内容量について議論し、授業外での学習を効果的に設計することも議論した。今後は、学生の理解を確か

めたり、学生の授業への集中を高めるために、授業中にスマートフォンを活用したいと検討されており、効果的な方法について意見交換が行われた。

- 第 6 回 2018 年 10 月 25 日 (木) 9:30~10:30
 - ・開催場所：教養教育 6 号館 3 階 授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：大村和人 准教授 (教養教育院)
 - ・授業題目：『中国語入門』
 - ・共催：教養教育院 FD 委員会
 - ・内容：授業は中国語の基礎を修得することを目的にしており、特に発音ができるようになることを目指している。授業中は、先生がゆっくり発音し、学生は繰り返し発声するなど、中国語の発音を丁寧に行っていた。また、質問シートを配付し、授業内容に関する質問や中国に関して知りたいことなどを書かせて回収し、次の授業の冒頭ですべての質問に回答するなど、学生との双方向性を取り入れていた。学生アンケートにおいても、丁寧に発音してくれるのがありがたい、学生の質問に丁寧に答えてくれることで中国語や中国に対する興味が湧いたという意見が複数挙げられていた。授業研究会では、中国語の授業における e-ラーニング教材の活用の可能性について話し合った。特に教材を作成する方法や、e-ラーニング教材を用いて効果的に事前学習を履修者にさせるための工夫等の意見交換を行った。
- 第 7 回 2018 年 10 月 29 日 (月) 12:00~13:00
 - ・開催場所：教養教育 6 号館 3 階 授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：田端厚之 講師
(大学院社会産業理工学研究部)
 - ・授業題目：『微生物検査科学』
 - ・共催：生物資源産業学部 FD 委員会
 - ・内容：授業は微生物検査に関する知識を習得することを目的として、3 年次を対象に実施している。高学年を対象とした選択科目であることから、実際の現場に近い内容を取り扱う応用科目として位置づけられている。授業では、検査機器の写真を示し、具体的に解説しながら丁寧な説明をしていた。学生アンケートにおいても、

説明が分かりやすいといった意見が多く挙げられていた。授業研究会では、学生の興味を喚起させるための工夫について話し合った。先生が参加する学会などで報告された内容を学生に紹介したり、学生の将来や卒業研究と関連した話を取り入れるなどのアイデアを共有した。また、学生同士のディスカッションの時間を確保するための具体的な方法などの意見交換も行った。

- 第 8 回 2018 年 11 月 1 日 (木) 10:25~11:25
 - ・開催場所：教養教育 6 号館 3 階 授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：白根竹人 講師
(大学院社会産業理工学研究部)
 - ・授業題目：『線形代数学Ⅱ』
 - ・共催：理工学部 FD 委員会
 - ・内容：先生の授業は線形代数学に関する基本概念の理解と行列に関する計算力を修得することを目的としており、理工学部の 1 年生を対象に実施している。授業では板書方式で前回の授業の復習、今回の授業で取扱うテーマの定義・計算方法の解説、例題・応用問題を使った演習等が丁寧に展開されていた。授業後に実施した学生アンケートの結果からは、白根先生の整然とした見やすい板書と具体例を挙げながらの丁寧な説明は大変分かりやすいという意見が多数あげられていた。授業研究会では、授業内容に関する学生の理解をどのように深めていくのかについて話し合った。今後の可能性として、授業開始の 10 分程度で小テストを導入し、解答は配付するのみに留め、詳細な解説を希望する場合はオフィスアワーを活用してもらうなどのアイデアを共有した。
- 第 9 回 2018 年 11 月 5 日 (月) 17:00~18:00
 - ・開催場所：化学・生物棟 8 階 811 第 1 セミナー室
 - ・授業担当者：白井昭博 講師
(大学院社会産業理工学研究部)
 - ・授業題目：『微生物学』
 - ・共催：生物資源産業学部 FD 委員会
 - ・内容：授業は、事前の PP 配付スライド資料、当日の資料プリントがあり、板書を併用して説

明する方法で進められた。授業の最後では、マイクロソフトのフォームを利用して振り返りの問題が出され、その日に学んだことの再確認ができた。その後、学生からのアンケート回答を確認し、学生自身も確認のための小テストが最後に行われることを良いことだと評価した。学生の理解度の平均は 6.07 でしたが、理解度のより高い群と低い群の 2 群に分かれた双峰分布が見られた。学生から要望として出てきた分かりやすい板書の仕方について話し合い、最後に行っているまとめのための小テストの問題をどのようなものにすればよいかについても協議した。

- 第 10 回 2018 年 12 月 7 日 (金) 14:00~15:00
 - ・開催場所：教養教育 6 号館 3 階 授業研究インテリジェントラボ
 - ・授業担当者：山下 聡 講師
(大学院社会産業理工学研究部)
 - ・授業題目：『森林科学』
 - ・共催：生物資源産業学部 FD 委員会
 - ・内容：授業は生物資源産業学部生物生産システムコースの選択科目で、森林科学に関する基本的な知識について、幅広く習得することを目的に実施している。毎回の授業で、確認テストを実施されており、学生の理解に繋げるための工夫を行っていた。授業で使用するスライドでは写真や具体的なデータを示しながら解説されており、学生アンケートからも、スライドが分かりやすい、図や表が多くて理解しやすいといった意見が挙げられていた。授業研究会では、資料の見やすさの工夫や授業内容の組み立て方について意見交換を行った。また、日ごろから授業の改善点や学生の理解などを、気軽に尋ねることができる学生がいて、学生の意見を取り入れながら授業を改善できる関係を作っていることも共有された。
- 第 11 回 2018 年 12 月 6 日 (木) 12:00~13:00
 - ・開催場所：総合研究棟 小ホール D-32
 - ・授業担当者：河野 理 准教授
(大学院医歯薬学研究部)
 - ・授業題目：『電気電子工学』
 - ・共催：医学部 FD 委員会

- ・内容：授業は保健学科放射線技術科学専攻の 1 年次必修科目で、放射線技師として働くうえで必要となる電気磁気学、電気回路の基礎を修得することを目的としている。特に、学生が論理的に考える習慣を身につけることや、自分が理解したことを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることも大切にしている。授業の冒頭では、学生が授業外で解いてきた演習問題について、発表する時間を設けており、先生はなぜそのような解答になったのかを学生に問いかけながら、補足説明を加えることで、学生の理解を深めていた。授業研究会では、学生による演習問題の発表や教員とのやり取りの方法について、学生の思考を促す問いかけ方や、学生の主体的な学習に繋げるための具体的な方法について意見交換を行った。

- 第 12 回 2019 年 3 月 1 日 (金) 12:10~13:10
 - ・開催場所：放射線医学分野医局 (医学臨床 B 棟 2 階)
 - ・授業担当者：川中 崇 講師
(大学院医歯薬学研究部)
 - ・授業題目：『臨床医学入門コース放射線治療 1』
 - ・共催：医学部 FD 委員会
 - ・内容：授業は医学部医学科 2 年次の専門科目で放射線治療に関する総論を理解することが目的である。2 年次ということで放射線科について詳しく知らない学生が多いため、医師の人数や放射能と放射線の違いなどを導入で説明し、授業への動機づけを行っていた。また、授業終了時にはスマートフォンを活用して振り返りテストを実施し、その場で学生の解答を確認しながら解説するなどの工夫を行っており、学生アンケートからも好評であることが窺えた。授業研究会では、学生の思考を促すための配布資料の構成などについて意見交換が行われた。
(吉田 博)

7. ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ (TPWS)

a. TPWS の課題と今後

徳島大学では 2011 年度より実質的な FD の取り組みを進めるため、「ティーチング・ポートフォリ

オ作成ワークショップ (以下, TPWS)」を開催している。2017 年度までに合わせて 27 名が TPWS に参加した。参加者の満足度は非常に高く, 教育改善に有効的であることが示されているが, 例年参加者が少ないことが課題とされている。

2018 年度の TPWS は, 事前に 1 名の参加申し込みがあったが, ワークショップ直前に参加者の都合によりキャンセルとなったため, ワークショップを開催することができなかった。参加者が少ない要因の一つに, TPWS が連続した 3 日間のワークショップであることから, 参加する時間を確保できない, 参加することに対する負担が大きいという声が挙げられている。徳島大学における TPWS は, ティーチング・ポートフォリオの質保証を目的にティーチング・ポートフォリオ・ネットワークが作成した「TP 作成ワークショップ基準」¹⁾に準拠している。これにより, 参加者が作成するティーチング・ポートフォリオは, 我が国において質が保証されたものとして認められている。したがって, 単純にワークショップの時間を短縮したり, 作成期間を分割して実施することができないと言える。

しかし, TPWS の参加者が少ないことや負担が大きいことは, 全国的にも課題となっており, 近年では簡易版のティーチング・ポートフォリオを開発し, 普及していこうとする動きが見られる。その一つとして, 教育実践の振り返りに焦点を当て, ワークシートを活用して 2 時間程度で, 具体的な実践から自身の教育に対する理念を明確にし, 成果や課題, 今後の目標を設定するティーチング・ポートフォリオ・チャート (以下, TP チャート) の作成が始まっている²⁾。

そこで, 2018 年度は試行的に「ティーチング・ポートフォリオ・チャート作成 WS」を開催し, 参加者の意見や, ワークショップの成果を検証することで, 今後のティーチング・ポートフォリオに関するワークショップの企画を再検討するための取組を行った。

b. 概要

■開催時期

2019 年 2 月 8 日 (金) 14 : 30~16 : 30

■会場

地域創生・交際交流会館 3 階 301 教室

■参加者

3 名

■運営・講師

吉田 博 (総合教育センター)

■内容

徳島大学では, 2018 年 11 月に大学教育委員会において「教育の内部質保証方針」が策定された。そこには, 学修成果に対する学生の到達度や学生による授業評価などを指標とし, 担当教員による自身の授業評価・改善を行うことが明記されている。そこで, 栗田佳代子・吉田 博・大野智久が紹介している TP チャート²⁾を参考に, 一部改変して徳島大学版 TP チャート (A3 サイズ; 図 2) を作成し, 授業実践に焦点を当てた TP チャートの作成を行った。

c. 成果と課題

プログラム終了直後, 参加者 3 名に対してアンケートを実施した。図 3 はアンケート結果を示している。このうち, 「自身の授業実践を振り返ることができた」, 「本ワークショップは今後の教育活動において有益なものであった」は, 参加者全員が最も肯定的な回答をしており, 本ワークショップは参加者にとって有益であったことが窺える。

自由記述からも, 授業の振り返りができたことや日常の取り組みを可視化できたという記述が見られた。

しかし, 参加者数が 3 名であることから, 今回の結果だけでワークショップの成果を述べることはできない。参加者数が少なかったことについては, 実施時期を再検討する必要がある。実際に, 学期末であったことから, 教員は担当する授業の成績評価を行うために期末試験の採点など, 多忙な時期であった。また, TP チャートが一般的に普及していないことも踏まえて, 教員がワークショップの内容や意義を理解できるように広報活動を行う必要がある。 (吉田 博)

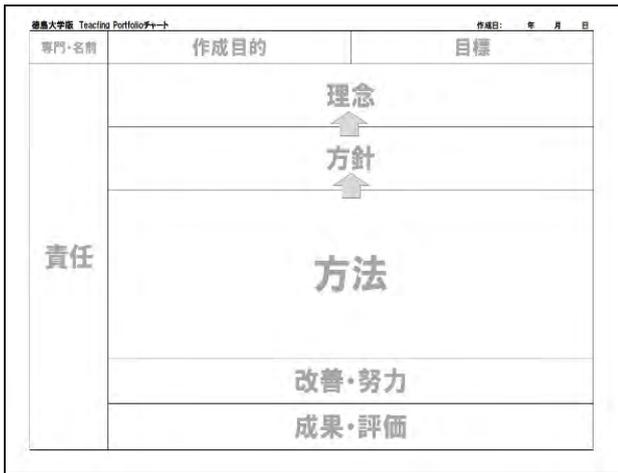


図 2 徳島大学版 TP チャート

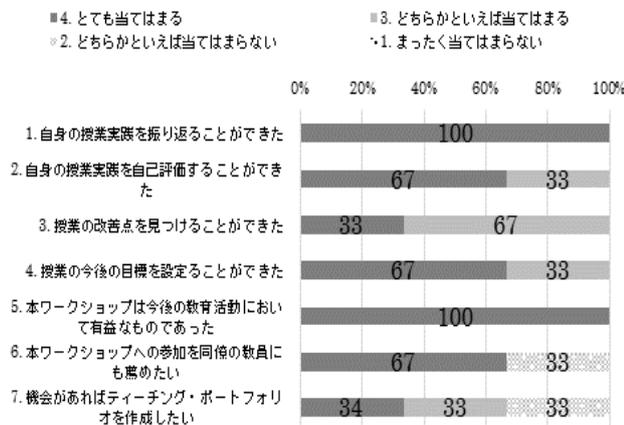


図 3 TP チャート作成ワークショップアンケート結果

8. アクティブ・ラーニングを推進する FD

a. ねらい

アクティブ・ラーニングを推進するために、「スマートフォンを活用した授業改善ワークショップ」を開催した。本ワークショップは 2017 年度から実施した FD プログラムである。2018 年度も継続してワークショップを実施した。

本ワークショップは、授業改善に繋がる ICT 機器の導入を進めることを目的に、到達目標は次の通りであった。

- ① ICT 機器活用の事例について説明することができる
- ② 「授業改善」の視点からアンケート・理解度テストの必要性について説明することができる
- ③ Office365 の「Forms」を使ってアンケート・小テストを開発できる

また、本ワークショップは全学 FD として位置づけ徳島大学の教職員を対象に実施した。昨今の大学における ICT 機器の導入事例を紹介し、授業改善の中で学生アンケートや理解度テストの重要性について解説した。また、全学的に導入されている Office365 のアプリケーション「Forms」を使って授業の中で実施する予定のアンケートや小テストを開発した。

b. 概要

■開催時期・会場

2018 年 12 月 19 日 (水) 17:00~18:30

蔵本キャンパス:総合研究棟 2 階 スキルス・ラボ 8A~8D

2018 年 12 月 20 日 (木) 16:30~18:00

常三島キャンパス:地域創生・国際交流会館共用室 301

■参加者

今年度の参加者は教職員 8 名であった。

氏名	所属	職名
西田 憲生	医学部	准教授
廣瀬 隼	医学部	教授
瓦井 俊孝	医学部	講師
畠 一樹	総合教育センター	特任講師
川中 理恵	学務部教育支援課	事務員
梶 真理奈	学務部教育支援課	事務補佐員
吉田 博	総合教育センター	講師
塩川奈々美	総合教育センター	特任助教

■運営

氏名	所属	職名
上田 勇仁	総合教育センター	助教

■内容

本ワークショップでは次の内容を実施した。

- 1) 大学における ICT 機器の導入事例についての解説
- 2) 授業改善における学生アンケート・理解度テストの活用方法
- 3) Office365 のアプリケーション「Forms」を使って授業の中で実施する予定のアンケートや小テストの開発 (図 4)

■成果と課題

研修終了後に実施したアンケートから「研修は自分の業務に生かせる内容だった」講師の用意し

た教材はわかりやすかった」「研修は全体的に満足できるものだった」、「今後の研修を継続していくべきだと思う」の項目について参加者全員が肯定的な回答を示した (図 5)。ワークショップの中でディスカッションにおいて、参加者から担当している授業で実施しているアンケートやクイズをスマートフォンで回答させたいという意見が多く、今回紹介したアプリケーションが効果的に運用されていくと考えられる。

マイナビが行った調査によると大学生が 1 日にスマートフォンを利用する平均時間は 3 時間と報告されている。今後も大学生のコミュニケーションツールの中心にスマートフォンが位置づけられると考えられる。³⁾ 学生にとってもスマートフォンを使ったアンケートや小テストの実施についての抵抗感は少なくなり、教育現場にスマートフォンを活用したツールの導入に関する要望が増えていくと想定される。今後も授業改善に繋がるツールの導入に繋がるワークショップを継続的に実施していくべきだと考えられる。(上田勇仁)

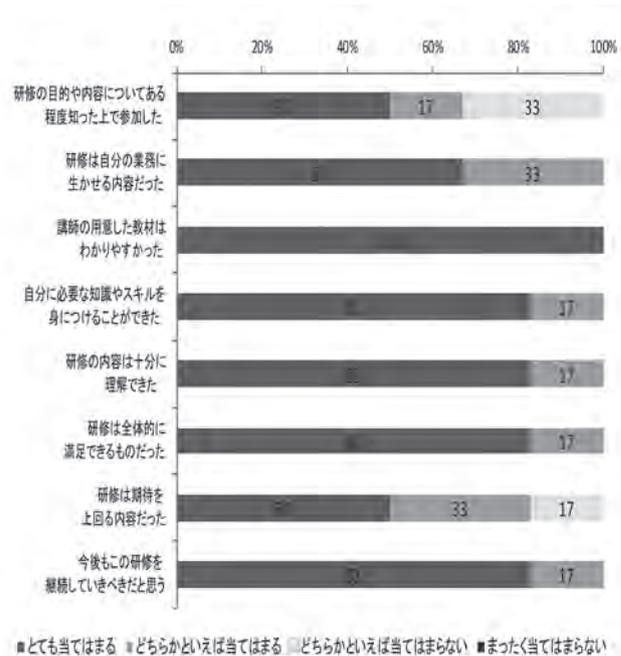


図 5 スマートフォンを活用した授業改善ワークショップ終了後のアンケート (n=8)

サンプルアンケート：現代社会論第3回

【アンケートの目的】現代社会論第3回の授業の最後に授業内容に対する感想を確認する。授業の中で紹介した「働き方改革」の新聞記事に関するアンケートを実施し、授業に参加している学生同士の考えを共有し理解を深める。

匿名で送信します。
* 必須

1. 氏名 *

回答を入力してください

2. あなたはプレミアムフライデーの制度についてどのように感じましたか? *

とても賛成
 賛成
 どちらともいえない
 反対
 とても反対

3. その理由について答えて下さい。 また、こうした制度があればいいという建設的な意見があれば答えて下さい。 *

回答を入力してください

図 4 スマートフォンを活用した授業改善ワークショップで解説したアンケート

9. 教授学習に関するFD「教育の内部質保証方針に則ったシラバスの書き方」

a. ねらい

徳島大学では、2018年度に「教育の内部質保証方針」、成績評価に関する科目レベルのガイドラインを策定し、各科目において学生の学習成果を公正で適切に評価するための指針を明確にした。各科目において実施する成績評価は、シラバスに明確に記載する必要があるため、教育の内部質保証方針の策定に合わせて、「シラバス作成ガイドライン」の改訂が行われた。本ガイドラインは、2019年度の授業より適応されることとなる。そこで、「教育の内部質保証方針」について理解し、改訂された「シラバス作成ガイドライン」に従って、学生の学習を促進するためのシラバスの書き方を習得する。

b. 概要

■開催時期

- 2018年12月3日(月) 13:30~15:00
- 2018年12月5日(水) 16:00~17:30
- 2018年12月14日(金) 17:30~18:30
- 2018年12月17日(月) 14:00~15:30
- 2018年12月21日(金) 16:30~18:00

※学部 FD との共同開催も含む

■会場

- 12月3日 共通講義棟 K-203 教室 (常三島)
- 12月5日 歯学部第3会議室 (蔵本)
- 12月14日 スキルラボ8 (蔵本)
- 12月17日 薬学部多目的室2 (蔵本)
- 12月21日 教養教育 6-201 教室 (常三島)

■参加者数

5回合わせて 92 名

■運営・講師

氏名	所属	職名
川野卓二	総合教育センター	教授
吉田 博	総合教育センター	講師

■内容

徳島大学大学教育委員会において策定された「教育の内部質保証方針」、改訂された「シラバス作成ガイドライン」について、その内容や意義について解説する。また、シラバスの役割や意義についての解説を行い、作成する際に注意する点や具体例を紹介する。

続いて、参加者が担当する授業の実際のシラバスを用いて、新しいガイドラインに沿った修正を行い、参加者間で相互チェックを行う。

■成果と課題

全学 FD 推進プログラムに加えて、理工学部、歯学部、薬学部の協力を得て、学部 FD と共同開催することができ、全部で 5 回の FD を実施し、合わせて 92 名の教職員が参加した。本学が教育の内部質保証を進めていく上で極めて重要となる

「教育の内部質保証方針」を学内に周知するという観点からも効果的であったと考える。

また、参加者アンケート (図 6) から、FD のねらいである、「教育の内部質保証方針」や「シラバス作成ガイドライン」の内容や意義を理解した参加者が多く、有意義であったことが伺える。一方で、「シラバス作成ガイドラインに沿ったシラバスを作成することができる」という設問については、「4. とてもそう思う」と回答した参加者の割合は、他の設問に比べて低く、「2. どちらかといえば当てはまらない」と回答した参加者も数名いる。自由記述でも「学部の事情に合った内容にして欲しい」や「具体的には「ダメなシラバス例」とその修正

(版)過程を実示していただけるとさらにわかりやすくなる」といった意見が挙げられていたことから、より具体的かつ学部の事情を踏まえた情報提供が求められることが分かる。

本 FD は、徳島大学が進めている教育改革と教員が実際に担当している授業の両方に関連する内容であった。そのため、今後の課題もあるものの、参加者アンケートの図 6 の結果や自由記述から多くの参加者にとって有益であったことがうかがえる。今後も本学が進めている教育改革を学内の教職員に周知するための FD を学部と共同で開催していくことを検討していきたい。(吉田 博)

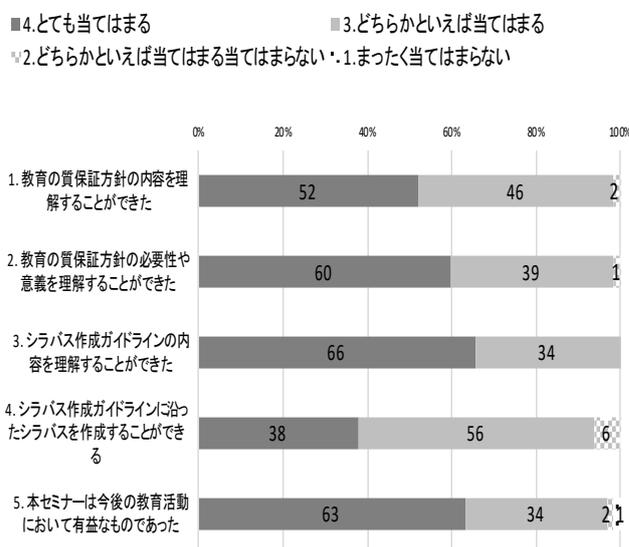


図 6 参加者アンケート (N=68)

10. 大学教育カンファレンス in 徳島

a. 大学教育カンファレンス in 徳島の目的

徳島大学の全学 FD 推進プログラムの一環として実施している大学教育カンファレンス in 徳島も今回で 14 回目となった。これまでの実践成果を基盤にして、本年度実施した FD 活動の成果を検証し、FD ネットワークを充実・発展させる機会となるよう、本学や他の高等教育機関で行われている教育実践の先駆的な取り組みを共有し、大学教育の質的向上に向けた成果を確認するために実施した。

b. 概要と成果

- ・会期：2018 年 12 月 26 日（水）8:50～18:00
- ・会場：徳島大学教養教育 4 号館等
- ・概要：全体の参加者は学外からの参加者 33 名を含む、147 名であった。発表件数は、口頭発表 14 件、ポスター発表 18 件、ワークショップが 2 件、自由参加型ディスカッションが 1 件行われた（表 2）。ワークショップ A では、総合教育センターの金西計英教授のコーディネートにより、山陽小野田市立山口東京理科大学工学部 亀田真澄准教授を講師に迎えて「Moodle を使って問題を作ろう」、ワークショップ B では、四国学院大学仙石桂子助教及び、教養教育院の Gehrtz 三隅友子教授による「教育にインプロをとりいれてみよう！—自らの体験を可視化する試み—」が行われた。

特別講演として、関西大学教育推進部の森朋子教授による講演が「深い学びを促すアクティブラーニングのデザイン」と題して行われた。すべての発表終了後に情報交換会を開催した。

c. カンファレンスの成果と今後の課題

発表件数と参加者数は比例していることから、今年度も発表件数を増やすための広報活動を行い、締め切り後も一部追加募集したことで、発表件数は昨年度より 2 件増加し、参加者数は例年通りであった。特に、学外からの個人研究発表の申し込みが複数あり、学外参加者が 33 名であったことは、最も学外参加者多かった 2011 年度に次ぐ人数である。さらに、高大連携事業による実践報告として、高等学校の生徒が口頭発表を行ったことは、新しい取組であり、教育カンファレンスの今後の可能性を広げる事例となった。

参加者を対象としたアンケートでは、「カンファレンスは全体的に満足できるものだった」（図 7）、「今後もこのカンファレンスを継続していくべきだと思う」（図 8）について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者は例年通り 80%以上に達している。今後も新しいテーマを取り入れたプログラムを計画することや、多くの教職員が個人研究発表の申し込みをしてくれるように広報等を積極的に行っていくようにしたい。

自由記述では、アクティブ・ラーニングに関する

記述が多く、「理解が深まった」、「最新の情報を得ることができた」という意見が挙げられていた。また、教職員が試行錯誤しながら実践している取組について意見交換できたことや、多くの参加者と自由に情報交換できたという意見も挙げられていた。大学教育カンファレンス in 徳島は、教育実践研究の促進に加え、多くの参加者が情報共有を行い、最新の情報を学ぶことができる多岐にわたるプログラムが企画されている。今後、大学教育への関心は高まっていくと想定されるが、もっと多くの教職員が参加する企画として発展していく必要があると考える。（吉田 博）

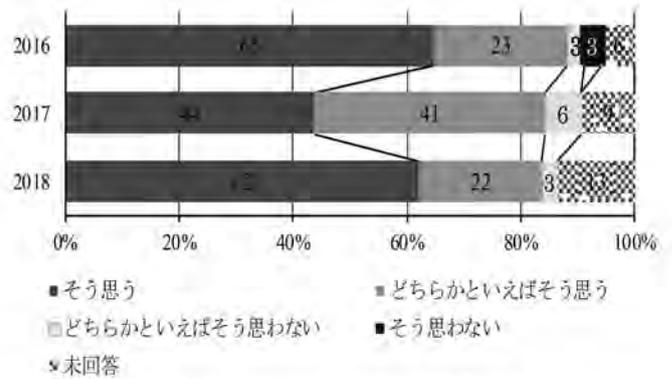


図 7 カンファレンスは全体的に満足できるものだった (N=37)

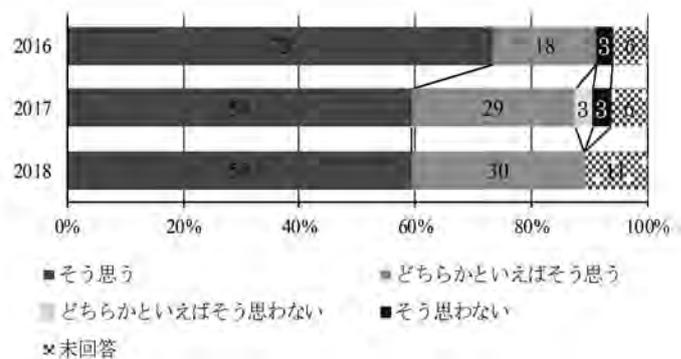


図 8 今後もこのカンファレンスを継続していくべきだと思う (N=37)

表2 2018年度 大学教育カンファレンス in 徳島プログラム

<p>8:30~ 8:50</p>	<p>受付 < 教養教育4号館2階ホール ></p>	<p>＜開催場所：4号館302講義室＞ ① 歯科補綴学授業におけるアクティブラーニングの学修効果 —反転授業とTBLの比較— 大学院医歯薬学研究所 大倉 一夫 他</p> <p>② フィンランド短期留学で高齢者ケアをテーマとする学際的教育セミナーに 参加した看護大学生の学び 大学院医歯薬学研究所 岡久 拾子 他</p> <p>③ フィンランド短期留学で看護専門科目を受講した看護大学生の学び(第2報) 大学院医歯薬学研究所 板東 孝枝 他</p> <p>④ 看護大学生への口腔ケア教授法の検討：口腔への関心と口腔セルフケアの 取り組みを踏まえて 大学院医歯薬学研究所 桑村 由美 他</p> <p>⑤ IoT対応2輪駆動型ロボットの開発—公開講座での活用事例— 技術支援部 辻 明典 他</p> <p>⑥ 大人教養科目でのSituational Learning(SL)によるAL実践報告 大学院社会産業理工学研究所 佐藤 高則</p> <p>⑦ プロジェク活動に挑む学生の意識調査 理工学部電気電子システムコース3年 国富 寿明 他</p> <p>⑧ 徳島大学小刀製作プロジェクト 釘ナイフ教室を通して学んだ教育のあり方 理工学部応用化学システムコース3年 伊勢 明日香 他</p> <p>⑨ 創新教育センターのプロジェクト活動で行う小中学生を対象としたロボット 教室について 工学部電気電子工学科3年 浦元 駿 他</p> <p>⑩ 徳島大学ロボットプロジェクト(TRP)の活動で得ること 理工学部電気電子システムコース2年 竹中 隼也 他</p> <p>⑪ 科学技術コミュニケーション科目による高大院連携およびグローバル教育の 試行 教養教育院 南川 慶二 他</p> <p>⑫ 大学開放実践センターを利用した高校生講座 教養教育院 渡部 稔 他</p> <p>⑬ Popular Culture Studies in Global Education グローバル化教育とポピュラー・カルチャー 教養教育院 キュンター・ティルク・クレメンス</p> <p>⑭ オンライン会議ツール「Zoom」の授業での活用について 教養教育院非常勤講師 ギュンター 知枝</p> <p>⑮ ジェネリックスキルの教育効果を高める実践力養成型インターンシップに 関する一考察 総合教育センター 倉 一樹 他</p> <p>⑯ 徳島大学「TSIH 道場」改善に向けた新入生調査 総合教育センター 堀川 奈々美</p> <p>⑰ 「コモンの悲劇」と「マゴロの資源管理」を学習するゲームの開発 大学院先端技術科学教育部 松重 摩耶 他</p> <p>⑱ 自己評価の可視化にもとづくコンピテンシー育成の促進 阿南工業高等専門学校 松本 高志 他</p>
<p>13:00~ 14:00</p>	<p>14:00~ 14:10</p>	<p>休憩</p>

会期：2018年12月26日(水) 会場：徳島大学教養教育4号館等

<p>8:30~ 8:50</p>	<p>学長挨拶 野地 澄晴 < 教養教育4号館202講義室 > 司会：川野卓二</p>	<p>＜4号館202講義室＞ 座長：赤池 B① 9:10~9:30 ■ 徳島大学における学習支援に関する二 —分析～学生によるピア・サポートの 視点から～ 理工学部応用理数コース1年 中井 秀和 他</p> <p>座長：宇都 A① 9:10~9:30 ■ デザイン思考の教育効果と企業ニ —の比較 創新教育センター 油井 毅 他</p> <p>A② 9:30~9:50 ■ 教養教育における体験型学習の実践 と効果～「藍染めの科学」の事例～ 大学院社会産業理工学研究所 佐藤 高則</p> <p>B② 9:30~9:50 ■ 学生が企画する「レポートの書き方講 座」の効果検証～昨年度の企画から見え てきた課題を踏まえて～ 理工学部応用化学システムコース2年 向井 将馬 他</p> <p>A③ 9:50~10:10 ■ 日本語研修初級コースにおけるアク ティブラーニングの取り組み—教室 での学びの最大化のために— 国際センター 福岡 佑子 他</p>
<p>10:10~ 10:20</p>	<p>10:20~ 11:50</p>	<p>休憩</p> <p>ワークショップA ＜6号館301LL講義室＞</p> <p>◆ Moodle を使って問題を作ろう 総合教育センター 金西 計英 他</p> <p>ワークショップB ＜地域創生・国際交流会館5F フューチャーセンター＞</p> <p>◆ 教育にインプロをとりいれてみよう！ —自らの体験を可視化する試み— 教養教育院 Gehrtz 三隅 友子 他</p>
<p>11:50~ 13:00</p>	<p>13:00~ 14:10</p>	<p>休憩</p>

<p>14 : 10 ~ 15 : 30</p>	<p>口頭発表 C 座長：馬場 ＜4号館 202 講義室＞</p> <p>C① 14 : 10 ~ 14 : 30 ■ スーパーグローバルハイスクールの取組～高大連携による課題研究～ 徳島県立城東高等学校 田中 千寿 他</p> <p>C② 14 : 30 ~ 14 : 50 ■ LMS による 2018 年入学前学習の効果 教養教育院 齊藤 隆仁</p> <p>C③ 14 : 50 ~ 15 : 10 ■ ゲーム開発プロジェクトの活動から得られたこと 理工学部情報システムコース 3 年 石田 翔太 他</p> <p>C④ 15 : 10 ~ 15 : 30 ■ 交換留学生プログラムに導入したヒト型患者ロボットによる歯科衛生士の態度・技能教育の試み 大学院医歯薬学研究部 伊賀 弘起 他</p>	<p>口頭発表 D 座長：玄竹 ＜4号館 203 講義室＞</p> <p>D① 14 : 10 ~ 14 : 30 ■ 理工系講義形式授業に特化した FD プログラム開発 総合教育センター 吉田 博 他</p> <p>D② 14 : 30 ~ 14 : 50 ■ アクティブラーニングを取り入れた大学 FD 授業のあり方と一考察～「保育力リキュラム論」の授業を通して～ 聖カタリナ大学短期大学部 戸井 和彦</p> <p>D③ 14 : 50 ~ 15 : 10 ■ 看護師・保健師学生に対する社会福祉学教育—当事者性を高めるアクティブラーニング— 人間環境大学松山看護学部 岡 多枝子 他</p> <p>D④ 15 : 10 ~ 15 : 30 ■ コンセプトマップを用いた授業デザインが看護学生の学習に及ぼす影響—科目「疾病論」の授業前後のアンケートより— 宝塚大学看護学部 大串 晃弘 他</p>
<p>15 : 30 ~ 15 : 45</p>	<p>休憩</p>	<p>休憩</p>
<p>15 : 45 ~ 18 : 00 (休憩含む)</p>	<p>特別講演 司会：川野卓二 <4号館 202 講義室> 演題：「深い学びを促すアクティブラーニングのデザイン」 講師：森 朋子 先生 (関西大学教育推進部 教授)</p> <p>自由参加型ディスカッション (テーマ：講演に対する質問や日常の教育活動を進めるうえで困っていること)</p> <p>司会：吉田 博 <4号館 202 講義室> コメントーター：森 朋子 先生 他</p>	<p>情報交換会 <徳島大学生協食堂 2 F 「Kirara」></p>
<p>18 : 20 ~ 20 : 20</p>	<p>情報交換会 <徳島大学生協食堂 2 F 「Kirara」></p>	<p>情報交換会 <徳島大学生協食堂 2 F 「Kirara」></p>

11. SIH 道場担当者 FD

本学が 2014 年度に採択された文部科学省大学改革推進等補助金「大学教育再生加速プログラム (テーマ I: アクティブ・ラーニング)」において、2015 年度から開講している初年次教育プログラム「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の 2018 年度の実施に向けて FD を開催した。本 FD は、各学部・学科のコーディネーターと授業担当者が、SIH 道場の目的・目標を理解し、SIH 道場の実施に必要な教育手法についての理解を深める機会を提供するものである。コーディネーターと授業担当者は原則として年度ごとに入れ替わるため、毎年実施している。本節では、2018 年度 SIH 道場担当者 FD の実施概要を報告する。

a. ねらい

本 FD は、授業設計コーディネーター、SIH 道場授業担当者が SIH 道場の概要とともに、授業で用いる e ポートフォリオ、ルーブリックによる評価法、アクティブ・ラーニングの手法を学ぶ機会を提供することで、SIH 道場の円滑な実施・運営を支援するためのものである。本 FD の目標は次の 3 つである。

- ① 大学教育再生加速プログラムの概要、当該学科の SIH 道場の詳細について理解する。
- ② SIH 道場の授業を担当するために必要な知識と技能を習得する。
- ③ OJT 型の FD として、授業実施から振り返りまでのプロセスを理解し、実践できるようになる。

b. 概要

■開催日・会場

常三島キャンパス (地域創生・国際交流会館共用室 301)

第 1 回 : 2018 年 3 月 1 日 (木) 17:00~18:40

第 2 回 : 2018 年 3 月 6 日 (火) 15:00~16:40

蔵本キャンパス (総合研究棟 2 階スキルスラボ 8A-8D)

第 1 回 : 2018 年 3 月 2 日 (水) 15:00~16:40

第 2 回 : 2018 年 3 月 7 日 (月) 17:00~18:40

本 FD の対象者は、2018 年度 SIH 道場の授業設計コーディネーター、授業担当者であり、計 4 回のうち出席可能な回に原則として参加することと

した。事情によりどうしても参加できない場合については、参加者が到達する目標及び、実践する内容について、参加した場合と同等の条件を満たしていることを当該教員の所属する学科の授業設計コーディネーターが確認した上で「参加」とみなすこととした。なお、授業設計コーディネーターは、各学科における授業運営 (実施, 振り返り, 評価等) の責任者であるため、大学教育再生加速プログラム実施専門委員会が個別に対応することとした。

■参加者

今年度の参加者は、教員 105 名である。

■運営メンバー

運営メンバーは、総合教育センター教育改革推進部門長を含め、詳細は次の通りである。

氏名	所属	職名
赤池雅史	教育改革推進部門	部門長
川野卓二	教育改革推進部門	教授
宮田政徳	教育改革推進部門	准教授
吉田 博	教育改革推進部門	講師
新原将義	教育改革推進部門	助教
上田勇仁	教育改革推進部門	特任助教
金西計英	ICT 活用教育部門	部門長

■内容

各 4 回の実施日において、表 3 のプログラムを実施した。

■全体の流れ

「SIH 道場の概要」では、SIH 道場の目標、内容、実施体制、授業設計の必須項目、教育改革推進部門及び、SIH 道場コンテンツ作成 WG の提供する教材について説明を行った。さらに、SIH 道場の改善に向けた評価として、学生及び、教員アンケートの実施やコーディネーターが行うプログラム設計評価シートによる振り返り等について説明を行った。

「e ポートフォリオシステム」では、学生及び、教員が授業で学んだ内容や授業実践について振り返りを行うための学生のツールである e ポートフォリオの使用法について説明を行った。

「アクティブ・ラーニングと学びを促す評価」では、アクティブ・ラーニングの定義や学修効果、ルーブリックによる評価法について説明を行った。

C. アンケート結果

研修会終了後に研修内容に関するアンケート調査を実施した。その結果を図 9 に記す。

d. 成果と課題

アンケート調査の結果からは、SIH 道場の目的や、授業担当者が行うべき事柄、ルーブリックに関する理解及び、FD・説明会の満足度を尋ねる設問について、4 件法で「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した参加者が 8 割を超えていた。

一方で、「SIH 道場における学生の到達目標が理解できた」の項目は他の項目に比べると否定的に捉えている受講者の割合が多く、2 割を超えていた。

こうしたことから SIH 道場の目的・役割など授業を運営するうえで必要な情報についての内容は

充実しているが、SIH 道場を通じてどのような能力を身につけるべきなのか具体的な事例とともに示していくことが必要であると推測される。

(上田勇仁)

参考文献

- 1) 大学評価・学位授与機構 (2014) 「ティーチング・ポートフォリオの定着・普及に向けた取り組み」.
- 2) 栗田佳代子・吉田壘・大野智久 (2018) 『教師のためのなりたい教師になれる本!』, 学陽書房.
- 3) マイナビ,2019 年卒マイナビ大学生のライフスタイル調査, 参考 URL : <https://saponet.mynavi.jp/release/student/life/2019> 年卒マイナビ大学生のライフスタイル調査/ 閲覧日 2019 年 1 月 25 日

表 3 2018 年度 SIH 道場担当者 FD

時間	内容	詳細項目	担当者
20分	SIH道場の概要	①目的・概要 ②スケジュール (設計→実施→振り返り)	上田勇仁
25分	eポートフォリオシステム	①システムの概要 ②学生の利用の仕方 ③教員の利用の仕方	金西計英 高橋暁子
55分	アクティブ・ラーニングと学びを促す評価	①アクティブ・ラーニングとは ②アクティブ・ラーニングの実践 ③学びを促す評価方法	川野卓二 新原将義

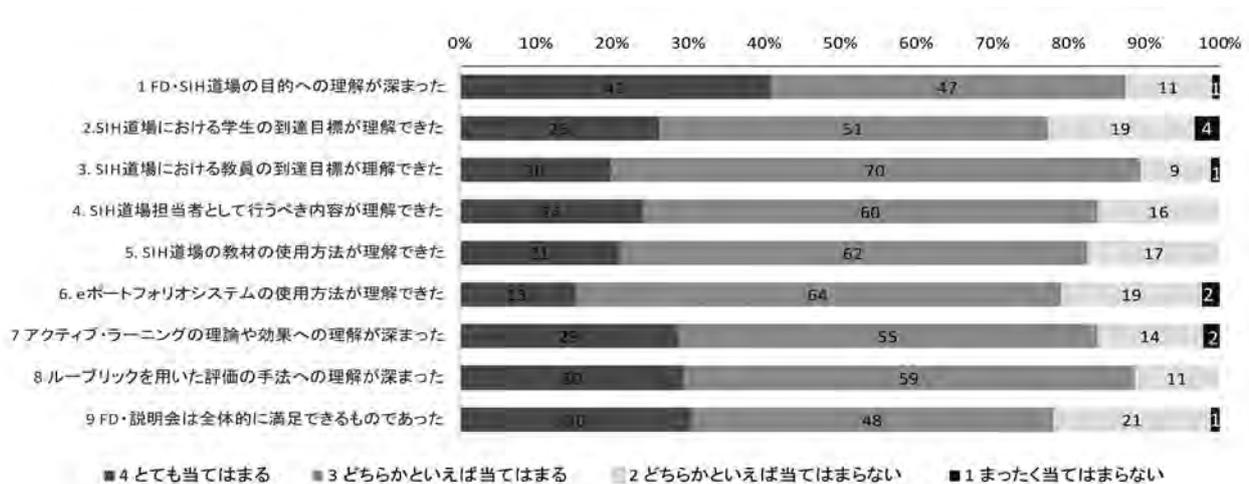


図 9 2018 年度 SIH 道場 FD アンケート結果 (N=89)